



## (2) 環境施策の進捗状況

### 基本方針1 | 暮らしやすさが実感できる環境をつくります

暮らしやすさを実感するためには、さわやかな空気や美しい水に囲まれた、騒音や振動・悪臭のない環境が必要です。本市は、これを踏まえて環境調査により大気や水質等の実態を把握するとともに、必要に応じて監視や指導を適正に行うことで地域の生活環境を守っています。

#### ① 環境保全のための調査・監視・指導

##### 環境の調査・監視・指導及び相談対応

- ・河川、地下水、事業場排水、環境中のダイオキシン類、酸性雨の調査を実施した。(詳細は市政報告書に掲載)
- ・水質事故の対応を適切に実施するとともに、発生原因を調査した。(右表参照)

##### 総合的な環境保全対策

- ・公害苦情発生を未然に防止するため、事業場の設置や増築に対し届け出を義務付けた。  
届出受理件数(2018~2022年度:計91件)

水質事故報告件数	
2018年度	6件
2019年度	3件
2020年度	0件
2021年度	0件
2022年度	2件

※水質事故として静岡県に報告した件数

#### ② 迷惑防止条例を活用した意識啓発の推進

##### 暮らしやすい生活環境の確保

- ・不法投棄の監視パトロールを行う中で投棄物を回収した。不法投棄対応件数  
(2018~2022年度:計2494件)
- ・雑草繁茂の苦情が寄せられた土地の所有者へ管理に対する指導を行った。  
指導件数(2018~2022年度:計1933件)
- ・狂犬病予防法に基づき畜犬登録等の推進を図った。また、ペットの飼育マナーを向上させるため、飼い主に対する指導や啓発看板の貸出を行った。  
畜犬登録数(2022年度末時点:8,817頭)

不法投棄対応件数	
2018年度	491件
2019年度	495件
2020年度	514件
2021年度	365件
2022年度	629件

##### 市・市民・事業者が一体となった環境美化活動の推進

- ・環境美化の日を広く市民に周知するとともに、市域全体で「環境美化統一行動」としてごみ拾いや草刈りを行った。(2022年度参加者数:20,087人)
- ・まち美化パートナー制度に参加する市民団体の協力を得て不法投棄を防止するパトロールを行った。  
参加団体数(2022年度:38団体)

環境美化統一行動で回収したごみ



### ③ 快適な生活環境の確保

#### ■ 大気汚染・悪臭対策

- ・屋外の焼却行為に対する指導とともに、市の広報紙や農業委員会広報紙等で広く市民に迷惑防止に向けた意識啓発をした。
- ・指導件数（右表参照）

#### ■ 騒音・振動対策

- ・騒音規制法や振動規制法等に基づき公害防止に関する指導を行った。
- 指導件数（2018～2022年度：計 98 件）

#### ■ 水質汚濁対策

- ・下水処理区域の水質汚濁を防止するため、公共下水道の整備を進めた。  
整備面積（2018～2022年度：計 187.6ha）
- ・下水処理区域外の水質汚濁を防止するため、合併処理浄化槽の設置にかかる費用の一部を補助した。  
補助件数（2018～2022年度：計 419 件）

#### ■ 事業者への啓発活動

- ・磐田市環境保全推進協議会の環境活動として間伐・植樹作業を実施した。  
（2018～2022年度：計 5 回）

#### ■ 公害相談への対応

- ・良好な生活環境を保つため、公害に関する相談等の解決に努めた。（右表参照）

野焼きの指導件数※1	
2018年度	96件
2019年度	84件
2020年度	68件
2021年度	45件
2022年度	76件

※ 環境課及び各支所における対応件数

合併処理浄化槽補助件数	
2018年度	75件
2019年度	95件
2020年度	84件
2021年度	90件
2022年度	75件

公害相談受付件数	
2018年度	149件
2019年度	107件
2020年度	105件
2021年度	87件
2022年度	97件

### ■ 環境指標

水質に係る環境基準達成率							
河川における生物化学的酸素要求量(BOD)に関する環境基準を達成した測定地点の割合							
目標値	2022	実績値	2018	2019	2020	2021	2022
	100%		100%	100%	100%	100%	100%

大気に係る環境基準達成率							
二氧化硫(SO <sub>2</sub> )、二酸化窒素(NO <sub>2</sub> )、浮遊粒子状物質(SPM)、微小粒子状物質(PM2.5)に関する環境基準を達成した測定地点の割合							
目標値	2022	実績値	2018	2019	2020	2021	2022
	100%		100%	100%	100%	100%	100%

汚水処理人口普及率							
公共下水道・農業集落排水・合併処理浄化槽により汚水が処理されている人口を住民基本台帳登録人口で除したものの。							
目標値	2021	実績値	2018	2019	2020	2021	2022
	93.48%		89.88%	90.63%	90.92%	91.70%	92.30%

※目標値は「磐田市一般廃棄物処理基本計画」に準ずる

## 基本方針2 | 豊かな自然環境を守ります

森林や海岸・河川・池沼等の自然環境に恵まれた本市は、多様な生態系を保ちながら多くの生きものが生息しています。これらは、私たちの暮らしに潤いや安らぎを与える重要な生活基盤です。市は、これを市民共通の財産として守り育て、将来の世代に引き継いでいきます。

### ① 森林保全と緑化の推進

#### 森林の保全と適正管理

- ・静岡県森の力再生事業を活用して荒廃森林の整備を実施した。(2006～2022年度：計 255ha)
- ・森林所有者を主体とした森林整備を目的に万瀬地区の森林経営計画を策定した。  
(2022～2026年度：56.45ha)

#### 緑地の保全及び緑化推進

- ・緑の募金を原資として地域花壇を対象に緑化支援事業を実施した。(2022年度：63団体)
- ・花いっぱいコンクールを開催して花の街づくりを推進した。(2022年度：20団体)

花いっぱいコンクールの審査



### ② 生物多様性の確保

#### 貴重種や外来種等への対応

- ・ベッコウトンボの生育状況を知るため、調査を行った。(右表参照)
- ・特定外来種等に関する通報等を受けて調査を行った。また、ホームページにおいて外来種に関する情報を提供した。  
(特定外来種の確認件数 2018～2022年度：計 2件)

#### 生息・生育地の保全

- ・県や環境保全団体等と協力し、生き物の調査や水質調査、静岡県自然環境保全地域に指定されている桶ヶ谷沼の保全活動を実施した。  
(水質調査 3回/年)  
(自然環境保全管理員による巡回 月4回以上)

ベッコウトンボ頭数

2018年度	91頭
2019年度	102頭
2020年度	23頭
2021年度	67頭
2022年度	380頭

※調査会において確認された頭数

桶ヶ谷沼保全作業



### ③ 河川・海岸・農地の保全

#### 河川の保全・管理

- ・河川を適正に管理するため除草作業を行った。  
(12河川 2018年～2022年：計120回)
- ・自治会等団体の協力を得て河川・水路等の除草や清掃を行った。(右表参照)
- ・水辺の環境保全活動や河川に親しむ啓発事業「天竜川水辺の楽校いわた」を地域の小学生対象に実施した。(2018～2019年度 参加人数：計360人)  
※2020年～2022年はコロナウイルス感染拡大防止により中止

#### 海岸線の保全・海岸美化

- ・市民や市民団体と協働し、防潮堤の法面緑化に取り組んだ。
- ・不法投棄等を防止するため地元自治会へ監視パトロール等を委託して海岸線の美化推進に努めた。  
(2018～2022年度：計146回)

#### 農地の保全・管理

- ・農業振興地域整備計画に基づき適正な土地利用計画を推進し、優良農地の確保に努めた。
- ・鳥獣被害防止計画に基づき、被害防除・捕獲に取り組んだ。(2018～2022年度 イノシシ計476頭、ハクビシン計16頭、カラス計2178羽)

河川・水路の除草等活動回数

2018年度	218回
2019年度	219回
2020年度	204回
2021年度	196回
2022年度	199回

※自治会等団体の協力を得て行ったもの

2018年度防潮堤植樹祭



### 環境指標

#### 市民一人当たりの都市公園等面積

民間開発等により開設された公園、交流センター、学校等のグラウンド、市民農園等を含む。

目標値	2022	実績値	2018	2019	2020	2021	2022
	21.27㎡		15.59㎡	15.61㎡	15.67㎡	15.79㎡	15.79㎡

※目標値は「磐田市緑の基本計画」に準ずる

#### 耕作放棄地面積

1年以上作付けされず、今後数年の間に耕作する意志のない農地の面積

目標値	2022	実績値	2018	2019	2020	2021	2022
	93ha		99.0ha	99.4ha	92.1ha	85.4ha	90.0ha

#### バッコウトンボの定量調査発生数

例年行う個体数調査で確認できた頭数館における年間入場者数

目標値	2022	実績値	2018	2019	2020	2021	2022
	200頭以上		91頭	102頭	23頭	67頭	380頭

## 基本方針3 | 自然・歴史文化とふれあう機会をつくります

良好な自然の景観や歴史文化的な遺産は、私たちが快適な暮らしを営むために重要です。この自然や歴史文化を活かした暮らしやすい街づくりを推進していくことにより、地域が魅力的なものとなるように取り組みます。

### ① 人と自然とのふれあい活動の場の創出・活用

#### 自然とのふれあいの場の整備・活用

- ・生き物に対する愛着を育むため桶ヶ谷沼ビジターセンターで自然観察会等を実施した。(右表参照)

自然観察会の参加人数	
2018年度	981人
2019年度	890人
2020年度	173人
2021年度	236人
2022年度	282人

#### エコツーリズムの推進

- ・静岡遠州観光ネットワークの事業として、中東遠地域におけるサイクルツーリズムの推進を図るため、ガイド付きのサイクリングツアーを開催した。(2018年4月・10月、2019年4月、2022年10月)
- ・獅子ヶ鼻トレッキングコースで県や市・スポーツ団体等が協力してトレッキングイベントを開催した。(右表参照)

トレッキングイベントの参加人数	
2018年度	48人
2019年度	28人
2020年度	211人
2021年度	20人
2022年度	実施無し

### ② 周辺と調和した良好な景観の保全・創出

#### 景観形成の推進

- ・地域の景観に大きな影響を及ぼす可能性のある大規模建築物等の建築や開発行為に対して、良好な景観形成を推進するよう適正な誘導に取り組んだ。(右表参照)
- ・景観形成に大きな影響を及ぼす屋外広告物等を基準に基づき指導するとともに、違反広告物の是正を行った。(2018～2022年度の指導件数：計256件)
- ・東海道の宿場町である見付地区において、歴史の趣が感じられる景観の形成を図るため、歴史的建築物の修理等に対し補助金を交付した。(2018～2022年度交付件数：計2件)

景観条例に係る届出件数	
2018年度	62件
2019年度	40件
2020年度	34件
2021年度	38件
2022年度	52件

### ③ 歴史文化とふれあう機会の創出・活用

#### 歴史文化遺産の保全

- 重要な歴史資産を適切に次代へ引き継ぐため、国指定文化財をはじめとする各種文化財の整備や保存活用を図った。  
 (2021年度磐田市文化財保存活用地域計画認定。  
 2018年度に遠江国分寺跡整備基本計画策定し、  
 2021年度より特別史跡遠江国分寺跡の再整備工事に着手している)

#### 歴史文化遺産の活用

- 文化財愛護を広く啓発することを目的に企画展や講座等を開催した。  
 (2018～2022年度：訪問歴史教室 104件、案内板の設置・修繕 25箇所・パンフレットの作成・改訂 28回・いわた文化財だより発行 12回/年・小学校 5・6年生向けのふるさと歴史たんけん隊 5回/年)

国分寺跡再整備事業計画



国指定文化財 旧見付学校



#### 環境指標

##### 自然観察会等に参加した人数

自然観察会や体験教室、環境保全啓発行事等の参加人数

目標値	2022	実績値	2018	2019	2020	2021	2022
	700人		1,184人	915人	173人	236人	282人

##### 歴史文化とふれあう市の施策に「満足」している市民の割合

普及啓発のための企画展等で実施するアンケート調査において、「満足」「良かった」等肯定的な回答の割合

目標値	2022	実績値	2018	2019	2020	2021	2022
	90%以上		91.2%	96.3%	84.6%	90.9%	95.0%

##### 文化財関係施設の入館者数

旧見付学校・旧赤松家記念館・埋蔵文化財センター・竜洋郷土資料館における年間入場者数

目標値	2021	実績値	2018	2019	2020	2021	2022
	48,500人		37,636人	37,951人	25,251人	28,259人	27,657人

## 基本方針4 | 3Rの取組みや環境にやさしい消費行動を推進します

環境に対する負荷が少ない持続可能な社会を実現するため、これまでの社会のあり方やライフスタイルを見直していくことが大切です。このため資源の循環、ごみの減量と再資源化、水資源の適正利用等の促進に取り組みます。

### ① 3Rの推進・廃棄物の適正処理

#### 総合的な廃棄物対策や啓発の推進

- ・ごみの減量及び再資源化を計画的に進めるため「一般廃棄物処理基本計画」を改訂した。(2022年3月)
- ・廃棄物処理施設の適切な管理運営を行った。

#### 3Rの推進

- ・持続可能な資源循環型社会の定着を図るため、3Rの取組みを推進した。
- ・食品ロス・プラスチックごみの削減に関する協定を市内3事業者6店舗と締結した。(2022年9月)
- ・市内小学4年生対象の施設見学会を実施した。(2022年度19校)

#### ごみの適正処理

- ・ごみの分別と適正な排出方法の周知を図った。(ごみ分別ガイドブック・ごみカレンダーを全世帯配布)

#### 不法投棄の防止

- ・不法投棄パトロールを実施する中で原因者特定調査を実施するなど再発防止に努めた。【再掲】

年度	資源化率
2018年度	18.1%
2019年度	16.6%
2020年度	17.5%
2021年度	20.5%
2022年度	19.7%

※市内のごみ総排出量における資源化物量と焼却灰の資源化量の割合

#### 食品ロス・プラスチックごみの削減に関する協定締結式



### ② グリーン購入・地産地消等の推進

#### グリーン購入の推進

- ・再生原料の利用を促進するためグリーンマークやエコマーク等の周知を図るとともに、市役所内のグリーン購入の実施状況を調査した。(グリーン購入達成率 2022年度 97.6%)

#### 地産地消の推進

- ・学校給食地産地消プロジェクトとして地元の生産者が育てた農産物を学校給食に使用し、PRを図った。(2018～2022年度：生産者学校訪問回数：計6回)

#### 環境にやさしい消費行動の推進

- ・環境に配慮した消費者の養成を目指して、消費者団体と協働でサロンや出前講座などの啓発活動を実施した。(2018～2022年度活動回数：計55回)

#### 地産地消プロジェクト



※小学校における市内産の野菜「コールラビ」についての展示紹介

### ③ 水循環の確保

#### 水資源の計画的利用

- ・水道事業ビジョンを推進することで良質な水源の維持や施設等の更新等を行った。  
(水道：耐震化率 23.9% 下水道：耐震化率 56.2%)
- ・計画的に老朽管の更新を実施し、上水道有効率の向上を図った。  
(右表参照)

#### 総合的な地下水の保全

- ・静岡県地下水の採取に関する条例に基づき、適正な地下水の利用を図った。
- ・地下水源の利用者で組織する中遠地域地下水利用対策協議会の運営を支援した。  
(2022年度末会員数：156団体)

#### 雨水浸透及び水源かん養の促進

- ・水源かん養機能を保全するため適正な森林の保全・管理の支援を行った。(2018～2022年度：計5回)  
【再掲】

年度	更新距離
2018年度	13.2km
2019年度	10.8km
2020年度	8.9km
2021年度	8.1km
2022年度	9.6km

#### 水源かん養事業 間伐作業



### 環境指標

#### 1人1日当たりのごみ排出量

市民一人が一日に排出する家庭から排出されるごみと事業活動で発生した産業廃棄物以外のごみの量。

目標値	2021	実績値	2018	2019	2020	2021	2022
	685g		731g	726g	741g	716g	721g

※目標値は「磐田市一般廃棄物処理基本計画」に準ずる

#### 地場産物を使用する割合

学校給食における地場産物を使用する割合(使用している品目数/全体品目数)

目標値	2022	実績値	2018	2019	2020	2021	2022
	20.0%		19.1%	19.4%	19.0%	20.2%	22.8%

#### 上水道有効率

料金の対象となった水量と消火など有効利用された水量の合計を送り出した総給水量で除したものの有効水量(有収水量+無収水量)/総給水量

目標値	2022	実績値	2018	2019	2020	2021	2022
	88.1%		86.5%	85.9%	86.6%	86.6%	86.2%

## 基本方針5 | 地球温暖化対策に取り組みます

深刻化する地球温暖化の主な原因は、私たち一人ひとりの日常生活や事業活動に伴う電気、ガス、石油等の仕様によるエネルギー消費が積み重なって生じたものです。そのため、市は市民や事業者が地球温暖化等の環境問題を理解できるよう啓発するとともに、地球環境保全に向けた取り組みを行います。

### ① 省エネルギーの推進

#### 総合的な地球温暖化対策の推進

- ・公共施設や事務事業における CO<sub>2</sub>排出量の削減を目指し、「第2次地球温暖化対策実行計画（事務事業編）」を策定した。（2018年3月策定）

#### 公共施設の省エネルギー対策

- ・省エネルギーを促進するため緑のカーテンを公共施設へ設置するとともに、クールビズを実施した。（本庁舎・支所・市内小学校など）
- ・「エコアクション21」に取組み、温室効果ガスの排出量について削減目標を達成した。（2013年度比 2022年度▲25.0%）

#### 家庭や事業所の省エネルギー対策

- ・事業所における「エコアクション21」の新規認証取得を支援した。（2018～2022年度：計3件）
- ・小学校でアース・キッズ事業やエコパーク見学など、地球温暖化に関する環境学習を実施した。（アース・キッズ事業 右表参照）

#### 交通の省エネルギー対策

- ・温室効果ガスの削減を目指して公共交通の主体である路線バスについてアイドリングストップ運転を導入した。（7路線）

#### 2022年度温室効果ガス排出量

市の施設

25,215.9t-CO<sub>2</sub>

#### アース・キッズ事業参加者数

2018年度	810人
2019年度	902人
2020年度	798人
2021年度	697人
2022年度	1,125人

### ② 地域の特色を活かした

### 再生可能エネルギーの普及促進

#### 再生可能エネルギーの導入

- ・再生可能エネルギーの普及啓発を図るため太陽光発電や蓄電池等の設置に対し奨励金を支給した。（右表参照）
- ・クリーンセンターでゴミ焼却熱を利用した発電を行うことで環境負荷の低減に努めた。（2018～2022年度：計66,420,020kWh）

#### 奨励金制度交付件数

2018年度	404件
2019年度	496件
2020年度	416件
2021年度	438件
2022年度	540件

### ③ 低炭素型社会の推進

環境と経済を両立する

#### ビジネススタイルの促進

- ・ I C Tによる環境制御等を導入した農水産業を営む事業者に対して補助金を交付した。(右表参照)
- ・ 再生可能エネルギー率の高い地域新電力「スマートエナジー磐田(株)」により企業や公共施設に電力を供給した。(2023年3月末時点 157 施設)

次世代型農水産業 立地促進事業費補助金	
2018年度	2件
2019年度	1件
2020年度	2件
2021年度	1件
2022年度	1件

#### 低炭素なまちづくりの推進

- ・ 中小企業に対し E Vシフトの動向等に関する情報を提供するとともに対応状況の把握に努めた。(市内企業約 190 社へのアンケートを 2 回実施)
- ・ 市内事業者と連携協定を締結し低速自動運転車両の実証実験を支援した。  
(2019年度～2020年度 新貝地区)

### 環境指標

市の施設における温室効果ガス排出量削減率 市の事務事業における温室効果ガス排出量の削減率(2013年度比)							
目標値	2023	実績値	2018	2019	2020	2021	2022
	16.0%		▲5.4%	14.5%	25.7%	19.9%	25.0%

エコアクション21認証登録の継続 市における環境マネジメントシステム「エコアクション 21」認証登録の継続							
目標値	2022	実績値	2018	2019	2020	2021	2022
	認証登録を継続		認証登録を継続	認証登録を継続	認証登録を継続	認証登録を継続	認証登録を継続

※エコアクション21はあらゆる事業者が効果的、効率的、継続的に環境に取り組むための仕組み

住宅用太陽光普及率 太陽光発電設備(10kw未満)導入件数/世帯数							
目標値	2022	実績値	2018	2019	2020	2021	2022
	12.0%		9.20%	9.7%	10.1%	10.9%	11.5%

## 基本方針6 | 環境教育を推進します

環境問題の解決は、市・市民・事業者が人と環境との関わりなどについて基本的な知識を学び、その理解を深め、環境に対する意識の醸成を行うことが必要不可欠です。そのため地域や学校、保育園、幼稚園、こども園等において幼児から大人まで幅広く環境教育や啓発活動を推進します。

### ① 環境教育の推進

#### 学校や保育園、幼稚園、こども園、地域等における環境教育

- ・ 日常の保育・教育の中で、ごみの分別など環境に配慮した取り組みを実践・指導している。  
(環境学習実施小学校 22校)  
(公立保育園・幼稚園・こども園 21園)

#### 環境体験学習の推進

- ・ 静岡県環境保全地域に隣接した桶ヶ谷沼ビジターセンターを中心に NPO 団体が実施する自然観察会を支援した。(2018～2022 年度：計 80 回)【再掲】
- ・ いわたエコパークにある風力発電設備や太陽光発電設備の見学を通じ、再生可能エネルギーについての環境学習を行った。(2018～2022 年度：計 5 回)

ベッコウトンボ



いわたエコパークの見学



### ② 環境保全活動の推進

#### 各主体の環境保全活動の推進

- ・ 磐田市環境保全推進協議会の環境保全活動として間伐作業を実施した。  
(2018～2022 年度実施回数：計 4 回)【再掲】
- ・ 事業者の環境マネジメントシステムの認証取得を支援した。【再掲】  
(2018～2022 年度：計 3 事業者)

環境保全推進協議会 植樹作業



### ③ 環境情報の活用と

## 協働による環境施策の推進

#### 環境情報の積極的な提供・活用

- ・アース・キッズ事業や桶ヶ谷沼の保全活動などの情報を積極的に報道機関へ提供した。また、市の広報紙を通じ環境保全活動や自然観察会、迷惑防止等に関する情報の周知を図った。  
(広報いわた・ホームページ・いわたホッとメール等)

アース・キッズ事業



#### 環境基本計画の推進・見直し

- ・第2次磐田市環境基本計画に定めた施策の取組状況をまとめた「いわたの環境」を毎年度発行し、ホームページで公開した。

#### 協働による環境施策の推進

- ・市民や事業者などの意見を反映するため、市民や関係機関の代表からなる環境市民会議において環境基本計画に対する意見を求めた。  
(2018～2022年度：計12回)

### 環境指標

環境教育に取り組む学校の割合							
地球温暖化防止に関することなど環境教育に取り組んでいる公立小学校の割合							
目標値	2022	実績値	2018	2019	2020	2021	2022
	100%		100%	100%	100%	100%	100%

学校給食における残菜量							
公立小中学校における学校給食1回当たりの残菜量の合計							
目標値	2022	実績値	2018	2019	2020	2021	2022
	6kg/回		6.2kg/回	10.1kg/回	10.6kg/回	10.7kg/回	11.8kg/回

協働による環境教育に取り組む園の割合							
環境保全団体や地域と協働で環境教育に取り組んでいる公立保育園、幼稚園、こども園の割合							
目標値	2022	実績値	2018	2019	2020	2021	2022
	100%		100%	100%	100%	100%	100%

## 2 第3次磐田市地球温暖化対策実行計画(事務事業編)

### (1) 計画の概要

#### ● 目的

本計画は、「地球温暖化対策の推進に関する法律」第21条第1項の規定に基づき、都道府県及び市町村が定めることとされている、地方公共団体実行計画の事務事業編として策定します。

内容は、平成30年3月に策定した「第2次磐田市環境基本計画」を踏まえ、本市が実施する事務事業に伴い排出される温室効果ガスを削減するための措置について定めたものです(図1)。

本計画を推進することにより、温室効果ガス排出量を削減するとともに、市民・事業者の自主的かつ積極的な温室効果ガス排出削減のための行動を促すことを目的としています。

#### ● 期間と基準年度

計画期間は2019年度から2023年度までの5年間とし、基準年度は2013年度とします。

#### ● 対象とする温室効果ガス

表1 本計画が対象とする温室効果ガスと原因行為

温室効果ガスの種類	人為的な発生源
エネルギー起源二酸化炭素(CO <sub>2</sub> )	・電気の使用 ・燃料の燃焼
非エネルギー起源二酸化炭素(CO <sub>2</sub> )	・一般廃棄物に混入する廃プラスチックの焼却 ・一般廃棄物に混入する合成繊維の焼却
メタン(CH <sub>4</sub> )	・一般廃棄物の焼却
一酸化二窒素(N <sub>2</sub> O)	・自動車の走行 ・下水及びし尿の処理 ・下水汚泥の焼却 ・浄化槽におけるし尿及び雑排水の処理
ハイドロフルオロカーボン(HFC)	・カーエアコンの使用

#### ● 対象とする範囲

本計画の対象範囲は、本市が行う全ての事務事業です。本市が直接管理している庁舎、上下水道、学校、病院などの施設に加え、指定管理者制度導入施設や委託により第三者が管理を行っている施設についても対象とします。

### (2) 計画の目標と評価

市の施設における温室効果ガス排出量と削減率							
市の事務事業における温室効果ガス排出量の削減率(2013年度比)							
目標値	2023	実績値	2018	2019	2020	2021	2022
	-		30,654 t-CO <sub>2</sub>	27,428 t-CO <sub>2</sub>	24,994 t-CO <sub>2</sub>	26,911 t-CO <sub>2</sub>	25,215 t-CO <sub>2</sub>
16.0 %	▲5.4%	14.5%	25.7%	19.9%	25.0%		

※市の施設における温室効果ガス排出量は、前年度のエネルギー消費量を集計し算定するため、最新数値は常に実年度の1年前のものとなります。

日常の事務・事業に関する取り組み及び施設整備に関する取り組みについては、エコアクション 21 とほぼ同じ内容が含まれていることから、エコアクション 21 環境経営システムを活用し、目標達成に向けた取り組みを推進しました。

### (3) 温室効果ガスの排出量の状況

2022 年度(令和4年度)の温室効果ガス排出量は 25,215.9 t-CO<sub>2</sub> であり、対 2013 年度比 25.0%減少しました。

温室効果ガス排出量

項目		2013 年度	2022 年度	
		実績値(t-CO <sub>2</sub> )	実績値(t-CO <sub>2</sub> )	増減率
燃料の燃焼	ガソリン(公用車)	365.6	308.4	-15.6%
	ガソリン(公用車以外)	12.5	9.23	-26.2%
	灯油	1,517.7	1,348.1	-11.2%
	軽油(公用車)	172.4	195.7	13.5%
	軽油(公用車以外)	76.1	3.2	-95.8%
	A 重油	2,962.9	2,575.1	-13.1%
	液化石油ガス(LPG)	723.8	652.9	-9.8%
	都市ガス	864.8	1,012.9	17.1%
電気の使用	電気	22,140.5	12,113.7	-45.3%
一般廃棄物の焼却	廃プラスチック類 (合成繊維)	1,166.9	1,324.3	13.5%
	廃プラスチック類 (合成繊維以外)	1,533.0	3,526.3	130.0%
	連続燃焼式焼却施設	594.8	675.0	13.5%
	バッチ燃焼式焼却施設	20.1	-	-100.0%
自動車の走行	公用車	17.3	13.1	-24.3%
下水又はし尿の処理	終末処理場	991.8	1,080.1	8.9%
	し尿処理施設	126.0	125.8	-0.2%
	浄化槽によるし尿及び 雑排水の処理	320.9	247.4	-22.9%
自動車用 エアコンディショナー	使用時	4.3	4.7	9.3%
合計		33,611.4	25,215.9	-25.0%

※端数処理の関係で合計と内訳の計が一致しない場合があります。